

F o r e s t 通 信

6.7

林野庁関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター No.295

巻頭 photo 高尾山の生き物たち



ミノサザイ(ミノサザイ科)

初夏の木下沢、日影沢に出かけると溪流一帯に響き渡る美しい野鳥の鳴き声が聞こえてきます。これが、我が国最小のミノサザイのさえずりです。体長は 10 ㇰ そこそこのうえ動きが素早く、撮影には苦しみました。

撮影写真は、幸いにも止まり場の岩より飛び立った瞬間を撮影できました。

この鳥を観察していると”こんな小さな身体でけなげに生きているな”としきりに感心させられます。

(写真・文 大作栄一郎氏)



サルナシ(サルナシ科)

日本、朝鮮、中国などに分布する雌雄異株のつる性の落葉樹です。5 ～ 7 月、白い 5 弁の花が咲き、果実はキウイフルーツを無毛にした小さな緑色の 2 ～ 3 ㇰ程度のものが熟します。味はキウイフルーツそのもので、甘酸っぱくておいしくいただけます。別名コクワとも呼ばれます。

つるは、直径約 5 ㇰ、長さ 50 ㇰにも伸びることがあり、非常に丈夫で腐りにくいことから、吊り橋の材料に使用されます。また、水を大量に蓄えるので、山中で飲料水が不足した場合、樹勢の強い時期に太いつるを切ると出る樹液を水の代わりに用いることもあります。



いろはの森

5 月の終わりに例年より 10 日も早い梅雨入りが発表された関東甲信越地方ですが、しばらくまとまった雨が降っていません。照りつける日差しも強く、まるで梅雨を抜かして夏が来たよう…と思っていたら、関東 1 都 5 県（神奈川県以外）の水がめとなっている利根川水系上流 8 つのダムの貯水量がピンチとのニュースが報じられました。国土交通省関東地方整備局によると 8 つのダムの貯水率は統計が残る 1992 年以降 73 %（5 月 31 日時点）。この時期としては、過去最低だそうです。水源地の 5 月の雨量が例年と比べかなり少なかったこともその一因と思われます。この現象は全国的なもので、各地のダムも軒並み貯水量減となっています。

ここ、高尾の森林の中にも、小さなダムがいくつもあります。上流の森林や土壌（緑のダム）に豊富に蓄えられた雨水が、少しずつしみ出し、やがて川の流れとなります。そのダムは森林です。森林に降った雨などは、土壌に浸透し、ゆっくりと流れ出ます。このように洪水や渇水が緩和されたり、澄んだ美しい水を私たちに供給してくれています。この働きのことを「水源かん養機能」といいます。

ところで、天気予報を見るとしばらく雨が降らないようです。全国的な水不足が懸念される中、梅雨が明ける前に水源地に充分な量の雨が降ってくれることを願い、また水不足に備えて節水の意識を高めようと（熱中症を起こさない程度に）誓う今日この頃です。（ま）

森林カレッジⅠ 森を見る

森林カレッジは、専門家等をお招きして森林・林業に関する講義と下刈や間伐等の林業体験を年 5 回開催しています。

今年度は、32 名が会員登録し 平成 25 年 5 月 25 日(土)、会員 26 名参加により高尾森林ふれあい推進センターにおいて第1回目の森林カレッジⅠ「森を見る」森林の見方」を開催しました。

講師に農学博士の藤森隆郎氏をお招きし、「地球環境問題と森林」と題して解説していただきました。

1 第1ステージ(午前)の講義

「地球環境問題の中でも特に大きな問題は、石炭や石油の乱用により、二酸化炭素等の温室効果ガスが増え続け、地球温暖化が進んでいることにある。この問題の本質は、現在の地球生態系で循環していない物質(過去の生態系から隔離されてきた生物遺体の化石である石油や石炭)を乱用していることにある。こうした環境下で森林をどう扱うか、それらは次にまとめられる」

(1) 二酸化炭素を吸収する光合成の盛んな森林・人工林をつくる

ここでいう「森」とは、木材を生産する目的の森である。二酸化炭素を吸収する機能の衰えてきた高齢級の人工林は伐採して、二酸化炭素をよく吸収する育ち盛りの森に再生させることが重要。

(2) 木材を活用して二酸化炭素をとどめる

伐採した木は、燃やしたり腐らせなければ吸収した二酸化炭素を外に出すことはない。それらを貯めた状態で木材を使うことが重要である。木造の住宅を建てたり、木製の家具を使うことで木材を長く使えば二酸化炭素を貯めたままにしておける。また、木材は、アルミニウムと比較して、製造時に必要とするエネルギー量が格段に少なく、環境への負荷も少ない。

(3) 蓄えている二酸化炭素の量が多い天然林を守る

天然林は、特に太く生長した幹、枝及び根は炭素を豊富に蓄えている。森林に堆積した落葉、落枝や土壌中に蓄えた二酸化炭素量は膨大であり、生物多様性の機能や水源涵養機能も高い。

(4) 二酸化炭素を出し続ける森林破壊をやめる

これは、熱帯多雨林等の原生林が破壊され続けていることへの問題提起である。違法伐採もあるが、自国の経済活動のために無計画に大量の木材を伐採したり、広大な森林を農地や放牧地に変えてしまうことにより、膨大な量の二酸化炭素が排出されてしまう。

国際的な森林の保全に関わる条約が生まれなかった背景には、途上国と先進国との間に意見の対立があり、この溝を埋めるための更なる対話が森林減少を食い止めるために重要である。

このような問題点を提起しながら、健全な森林とはどのようなものか等、わかりやすいパワーポイントによる講義内容で、受講生は熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われました。

2 第2ステージ(午後)の講義

自然研究路「稲荷山コース」から高尾山頂まで”森林の見方”について藤森先生の現地講義を行いました。コース沿いには、高尾山特有の暖温帯林と冷温帯林が混ざり合った植生や林齢が 100 年超の林分等を実際に見ながら、森林と社会とのつながりや森林が果たしてきている役割等について、要所所で解説をいただきながら約 3 時間弱かけて山頂に到着。山頂で閉会式後解散し、観光客や登山客で賑わう新緑の高尾山を後にしました。

カレッジ生からのアンケートでは、「社会や経済の発展とともに失ってきた森林等の価値がいかに大きかったか理解できた」、「自然との共存や経済的にではなく自然の豊かさの価値を意識した生活が必要と感じた」、「普段は登るだけだったが、講義や説明を聞いて新たな視線で山や木々を見ることができた」、「講義だけではなく現地での解説を受けてより理解が深まった」、「現在の生活環境を振り返る機会となった」、「視点が広がった」等という意見が寄せられました。(い)





小さな手・大きな未来！出前森林教室

初夏を思わせるような好天に恵まれた 5 月 14 日(火)、三鷹市の保育園の 5 歳児 22 名の出前森林教室を実施しました。

初めて使うノコギリに興奮して夜眠れなかったという園児もいましたが、お友達からの、「がんばれ・がんばれ」の声援で無事に切り終えた丸太切り。シラカバの円盤に思い思いの色使いでお絵描きし、お土産に持ち帰る木製ペンダント作り。園舎の床、壁、机や椅子など、ふんだんに木材を使用した室内で紙芝居の読聞かせ。園児たちのあまりの元気良さに、先生から「お隣ではお昼寝中ですよ。静かにね。」との注意。この保育園は、森林や木材、自然環境教育に熱心で毎年出前森林教室を依頼されています。

この子どもたちの小さな手に大きな未来や可能性が秘められています。可能性の種子たちとの出会いに心癒やされた一日でした。(か)



常連校 森林・林業体験

八王子市立みなみ野小学校(八王子市みなみ野)の生徒、5 年生 3 クラス 97 名が 5 月 31 日(金)、大平国有林の森林ふれあい館とその周辺の森林において森林・林業体験をしました。

バス 2 台で大平国有林に降り立った生徒たちは、ドアが開き降車すると、口々に“気持ちいい”、“何かいい匂いがする”などと元気のいい歓声が揚がりました。

体験内容は、野外でスタッフによる間伐のデモンストレーションを見学した後、伐採された間伐材を子どもたちがみんなで引っ張り出しての丸太切り。森林ふれあい館内で「森林からの贈りもの」や「森林の働き」などの森林教室と森林クイズ。また、スギやウメなどの木片を使用した「木づかいキーホルダー」作りなどを体験しました。

生徒らは、一人ひとりが思い思いの樹種を丁寧に磨き上げたオンリーワンの木づかいキーホルダー作りに没頭。また森林クイズで出題した 10 問のうち、設問ごとの答案に手を挙げ、真剣に聞き入り大変盛り上がりました。

みなみ野小学校は、毎年、5 年生の総合学習の時間に森林や林業、自然環境に触れる機会として当センターの森林・林業体験を継続している常連校です。この生徒たちが森林・林業の応援団としてすくすくと育ってほしいと感じた一日でした。



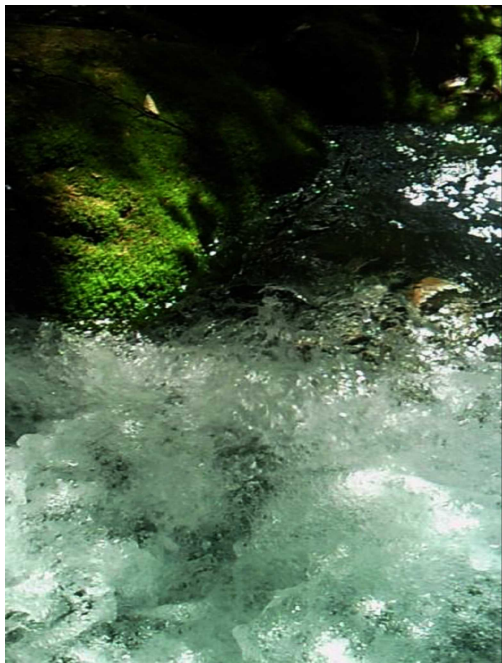
■information 参加者募集中!

親子で楽しむ



夏の高尾山親子自然観察会

高尾山に小天狗
大集合!



高尾山の小天狗になろう! 高尾・木下沢の森と溪流体験”かわいい水辺の生き物たち”



- と き** 平成 25 年 8 月 24 日(土)
- 集 合** JR高尾駅北口改札前 8:30 受付
- 解 散** 梅林駐車場 15:30 予定
- 実 施** 森林インストラクター東京会(FIT)
- 内 容** 森林インストラクターと木下沢林道を歩いて盛りの静けさを感じ、木下沢では、せせらぎや野鳥のさえずりに浸りながら、たくさんの昆虫や水辺の生き物を観察しよう。
- 対象者** 小学生とその家族 50 名(子どもは小学生以上対象。応募者多数の場合は抽選)
- 参加費** 一人 500 円 (バス往復代は個人負担)
- 持ち物** リックサック、昼食、飲み物、敷物、筆記用具、雨具、保険証、活動しやすい服装、歩きやすい運動靴、溪流に入る際の靴(サンダル不可)、帽子、着替え、タオル・手ぬぐい、着替え、歩きやすい靴(サンダル不可)
- 備 考** 小雨決行(中止の場合は前日に連絡します)

申込方法

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢・性別④電話番号(中止などの緊急連絡用)⑤電子メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったか。返信面には、お申込者の宛名をご記入のうえ、高尾森林ふれあい推進センター「夏の高尾山親子自然観察会」係までお申し込み下さい

★申込〆切 平成25年8月10日(木)必着

センターからのお知らせ

1. Forest通信の隔月発行について

Forest通信の発行は、当面の間、諸般の事情によりまして隔月での発行となります。

2. 庁舎敷隣接地の「高尾の里拠点施設造成工事」の実施による回り道について(右図の工事箇所のとおり)

- ・工事期間 平成25年6月下旬～平成25年10月中旬
- ・交通規制 一部車両通行止め、歩行者等の通り抜け不可
- ・発注者 八王子市



編集後記

一気に暑くなった 6 月、すっかり初夏の日差しになりました。梅雨に入るまでのひとときの太陽を堪能したいところですが、やはり紫外線が気になります。今日も美肌を守るべく、日傘を差して通勤しています。(ま)

Forest通信 No.295

発行: 高尾森林ふれあい推進センター

【 Forest通信へのご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合せ先 】

林野庁 関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>